

2016年度 決算説明会

代表取締役社長 志藤 健

YORZU

株式会社 ヨロズ

東京証券取引所市場第1部（証券コード：7294）

目次

YORZU

- I. 2016年度業績
- II. 2017年度予想
- III. 米国での収益改善の取り組み
- IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性
- V. 株主還元について

I. 2016年度業績

II. 2017年度予想

III. 米国での収益改善の取り組み

IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性

V. 株主還元について

2016年度連結決算概要(前期比)

単位:百万円

	2016年度	2015年度	前期比	2016年度 直近予想 ※2	直近予想比
売上高	167,723	172,797	△2.9%	166,000	+1.0%
営業利益	6,327	10,015	△36.8%	5,100	+24.1%
経常利益	6,265	7,355	△14.8%	5,000	+25.3%
当期純利益※1	3,980	3,700	+7.6%	2,900	+37.2%
	2016年度	2015年度	増減額	増減率	
一株当たり当期純利益	163円73銭	149円39銭	+14円34銭	+9.6%	
連結取り込みレート	108円77銭 / \$	121円10銭 / \$	△12円33銭 / \$	△10.2%	

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 2017年2月9日開示予想値

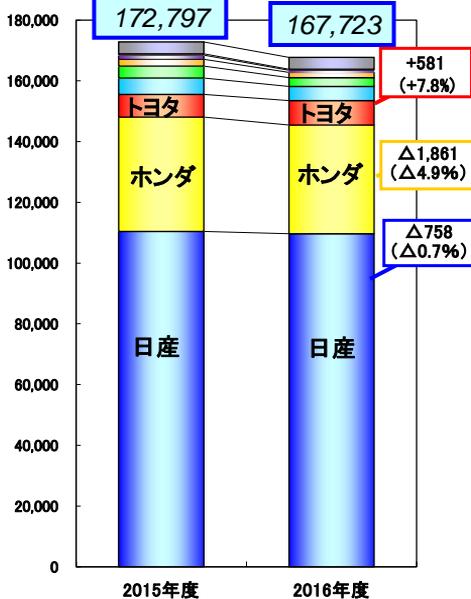
売上高 : 円高の影響により減収
営業利益 : 米国損益悪化により減益
経常利益 : 為替差損の減少により減益幅縮小
当期純利益 : 税金費用の負担減少により増益

連結得意先別売上高(前期比)

YORZU

単位:百万円

単位:百万円



得意先	2015年度	(%)	2016年度	(%)
日産 Gr ※	110,412	63.9%	109,654	65.4%
ホンダ Gr	37,659	21.8%	35,798	21.3%
トヨタ Gr	7,458	4.3%	8,039	4.8%
いすゞ	5,396	3.1%	4,656	2.8%
マツダ	3,725	2.2%	2,746	1.6%
スズキ	2,239	1.3%	1,731	1.0%
VW	1,367	0.8%	706	0.4%
GM Gr	439	0.3%	339	0.2%
その他	4,102	2.3%	4,054	2.5%
合計	172,797	100.0%	167,723	100.0%

※ ルノー向け売上含む

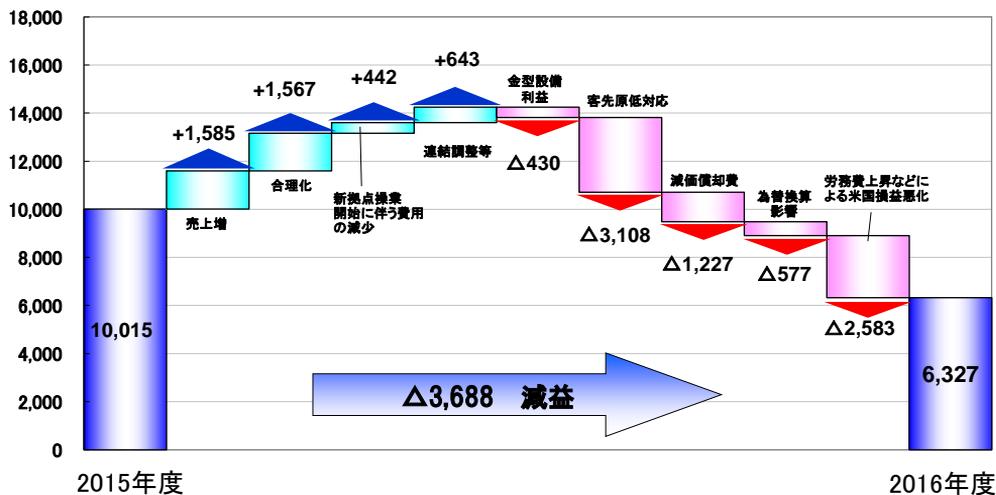
現地通貨ベースでは増加となるも
円高の影響により全体は減少

5

連結営業利益の増減要因分析(前期比)

YORZU

単位:百万円



売上(ボリューム)増や、合理化などの増益要因はあったものの、
労務費上昇などによる米国損益悪化により減益

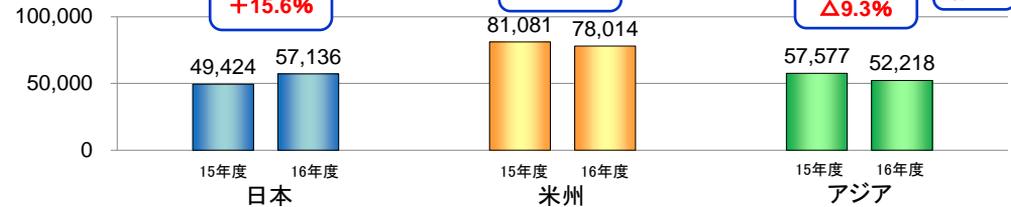
6

地域別(連結調整前)売上高・営業利益(前期比)

YORZU

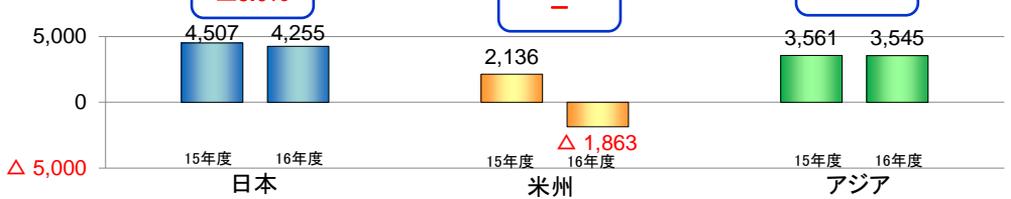
◆売上高

単位:百万円



◆営業利益

単位:百万円



日本：海外からのロイヤルティが円高により減少
 米州：米国損益の悪化により営業損失
 アジア：現地通貨ベースでは増益も、円高の影響により横ばい

7

連結貸借対照表の概要 2017年3月期

YORZU

単位:百万円

	2017年3月末	2016年3月末	増減	
流動資産	72,018	67,117	+4,901	現預金 +2,860 棚卸資産 +1,634
固定資産	95,152	84,233	+10,919	有形固定資産 +10,405 無形固定資産 △127 投資その他の資産 +641
資産合計	167,171	151,351	+15,820	
流動負債	55,667	43,092	+12,575	有利子負債 +13,703 電子記録債務 +4,207
固定負債	17,744	12,230	+5,514	
負債合計	73,412	55,323	+18,089	
株主資本	81,570	80,123	+1,447	純利益 +3,980 配当支払 △913 自己株式 △1,587
その他の包括利益累計額	△3,124	△499	△2,625	為替換算調整勘定 △3,634 その他有価証券 評価差額金 +957
非支配株主持分他	15,311	16,403	△1,092	
純資産合計	93,759	96,027	△2,268	
負債・純資産合計	167,171	151,351	+15,820	

新拠点立上げや既存拠点の増強・拡張により有形固定資産が増加
 銀行借入での資金調達により有利子負債が増加

8

I. 2016年度業績

II. 2017年度予想

III. 米国での収益改善の取り組み

IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性

V. 株主還元について

2017年度連結業績予想の概要

◆ 損益の状況(前期比)

単位:百万円

	2017年度 予想	売上高 比率	2016年度 実績	売上高 比率	2017年度予想 - 2016年度実績	
					増減額	増減率
売上高	166,000	100.0%	167,723	100.0%	△1,723	△1.0%
営業利益	4,100	2.5%	6,327	3.8%	△2,227	△35.2%
経常利益	4,400	2.7%	6,265	3.7%	△1,865	△29.8%
当期純利益※1	2,500	1.5%	3,980	2.4%	△1,480	△37.2%

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

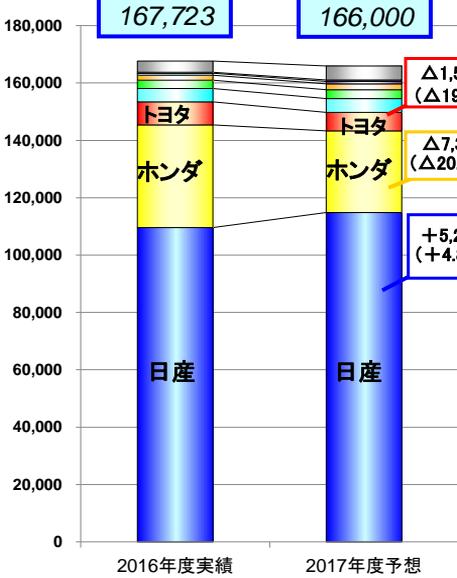
	2017年度予想	2016年度実績	増減額	増減率
一株当たり当期純利益	105円18銭	163円73銭	△58円55銭	△35.8%
連結取り込みレート	105円00銭 / \$	108円77銭 / \$	△3円77銭 / \$	△3.5%

売上高 : 現地通貨ベースでは増加も、円高(想定)により
全体としては、ほぼ横ばい
営業利益: 日本・メキシコなどの固定費増加により減益の見込み

連結得意先別売上高(16年実績 対 17年予想)

単位：百万円

単位：百万円



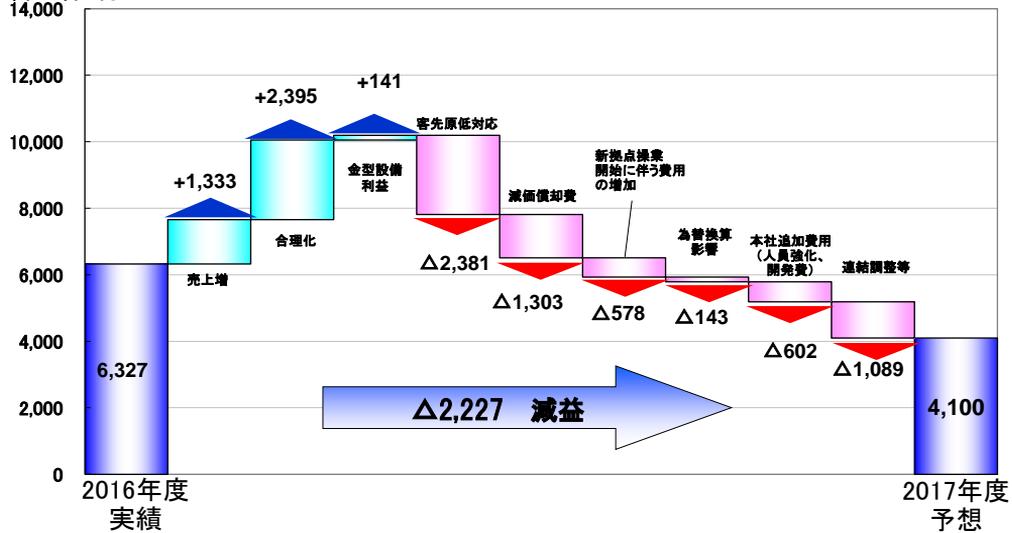
得意先	2016年度実績	(%)	2017年度予想	(%)
日産 Gr ※	109,654	65.4%	114,895	69.2%
ホンダ Gr	35,798	21.3%	28,474	17.2%
トヨタ Gr	8,039	4.8%	6,446	3.9%
いすゞ	4,656	2.8%	4,814	2.9%
マツダ	2,746	1.6%	2,906	1.8%
スズキ	1,731	1.0%	2,049	1.2%
VW	706	0.4%	845	0.5%
GM Gr	339	0.2%	507	0.3%
その他	4,054	2.5%	5,064	3.0%
合計	167,723	100.0%	166,000	100.0%

※ ルノー向け売上含む

**現地通貨ベースでは増加も
円高(想定)により横ばい**

連結営業利益の増減要因分析(16年実績 対 17年予想)

単位：百万円



売上(ボリューム)増や、合理化などの増益要因がある中、将来に備えた、増強・拡張による償却費増、人員強化、開発費増などにより減益見込み

地域別(連結調整前)売上高・営業利益 (16年実績 対 17年予想) YORZU

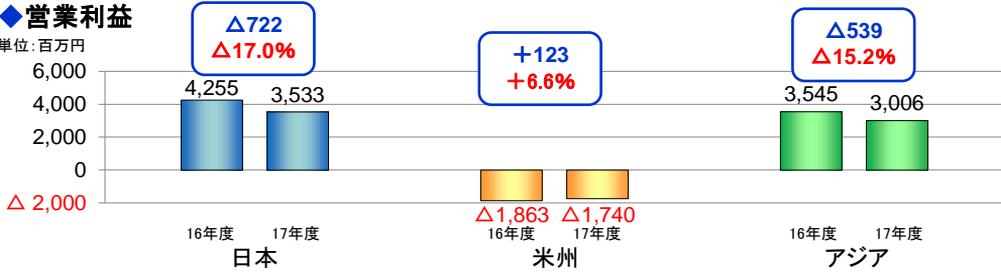
◆売上高

単位:百万円
100,000



◆営業利益

単位:百万円

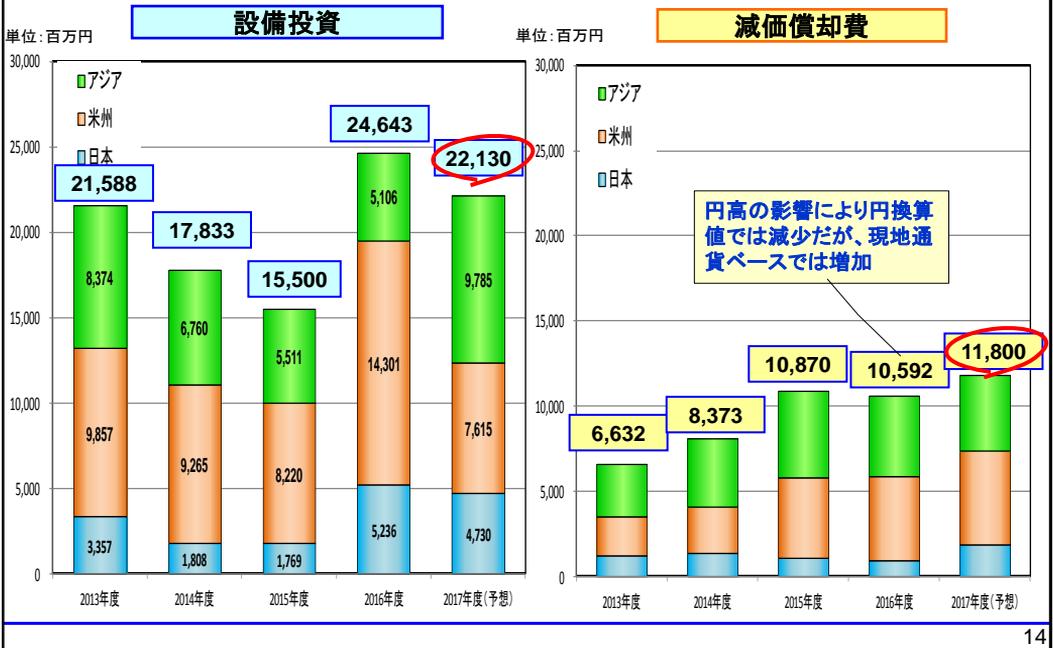


日本 : 固定費(償却費・人件費・開発費)の増加などにより減益
 米州 : 米国テネシー改善により、アラバマ立上げ費用の増加などあるも損失は縮小
 アジア: 円高(想定)と償却費の増加により減益

13

設備投資と減価償却費

YORZU



14

I. 2016年度業績

II. 2017年度予想

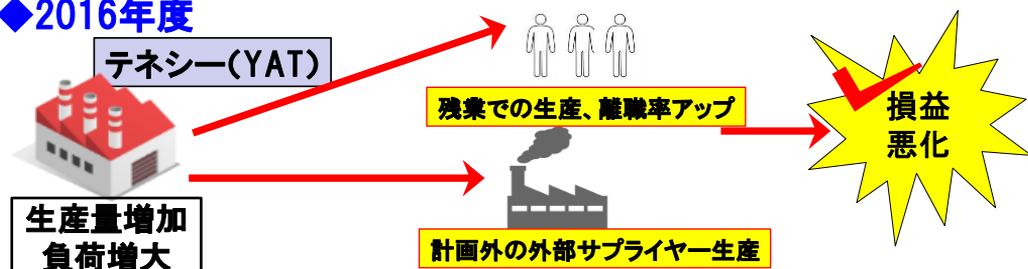
III. 米国での収益改善の取り組み

IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性

V. 株主還元について

米国での収益改善の取り組み

◆2016年度



◆2017年1月以降



YAA早期立上げによる負荷軽減とプレス内製化

米国での収益改善の取り組み

YAA早期立上げスケジュール

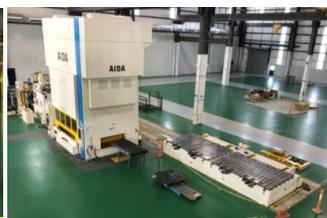
		2017				2018
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
工場立上げ日程	当初計画					▲ 生産開始
	実績/計画	▲ 17年1月 プレス生産開始		▲ 組立塗装一貫生産開始		



YAA全景



3500TFプレス (17年1月生産開始)



1200BLプレス (17年5月生産開始)

稼動予定を1年以上前倒しし、生産を開始

I. 2016年度業績

II. 2017年度予想

III. 米国での収益改善の取り組み

IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性

V. 株主還元について

長期ビジョン 10年後(2015→2024)

サスペンションシステムメーカーを目指す

YSP2017 事業領域の3本柱

- (1) 製品力・開発力の更なる強化
- (2) 世界の主要自動車メーカーへの販路拡大
- (3) 多様性を尊重したグローバルマネジメントの強化

YSP2017計画策定時からの変化点

- ✓ 米国損益の悪化
- ✓ 円高の進行(関連する通貨全て円高方向)
- ✓ 新興国の生産台数の伸び悩み

長期ビジョンの達成に向けて

- ・事業領域の3本柱：継続して推進
- ・米国の収益改善：緊急重要課題として取り組み

19

YSP2017 事業領域の3本柱

(1) 製品力・開発力の更なる強化

- 1) 超軽量・高剛性・低価格ニーズへの対応
- 2) YPW(ヨロズ生産方式)の革新

(2) 世界の主要自動車メーカーへの販路拡大

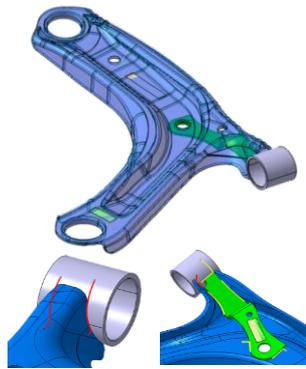
- 1) 欧米OEMへの販路拡大
- 2) グローバル供給体制の更なる強化

(3) 多様性を尊重したグローバルマネジメントの強化

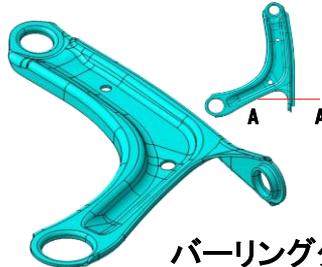
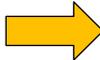
- 1) 将来の業容を見据えた人財確保と登用

20

軽量化サスペンションリンクの開発



現行品 (3部品構成)
溶接有り



バーリングタイプ
溶接レス

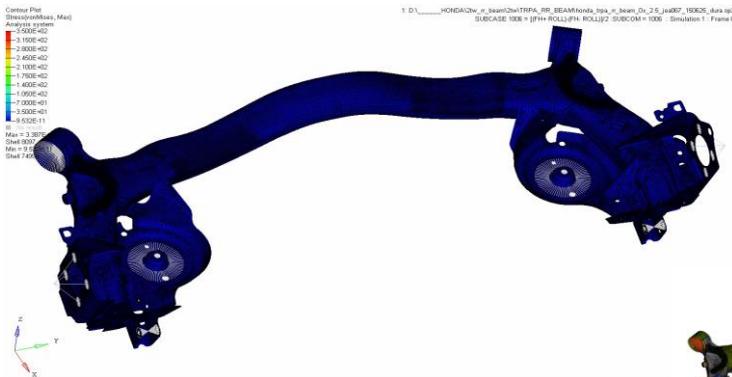
SECT A-A

提案形状 (溶接なし1部品構成)

溶接に頼らない構造により、軽量化を可能としたサスペンションリンクを開発中

シミュレーション技術による解析モデル自動作成システム開発

性能シミュレーション事例



解析モデル

解析モデル作成の自動処理化に取り組み、開発・生産準備プロセスの期間を短縮。

無人化ラインの取り組み



新工法の開発・品質向上



2016年度に受賞した品質賞

YORZU



北米日産より
リージョナル品質賞
(YMEX)



メキシコ日産より
品質賞(YMEX)

日産車体より
品質貢献賞

NISSAN 日産自動車より グローバル品質賞【4年連続】



HINO



日野自動車より
品質優良賞(北米YAT)

TOYOTA



トヨタ自動車東日本より
品質感謝状

HONDA



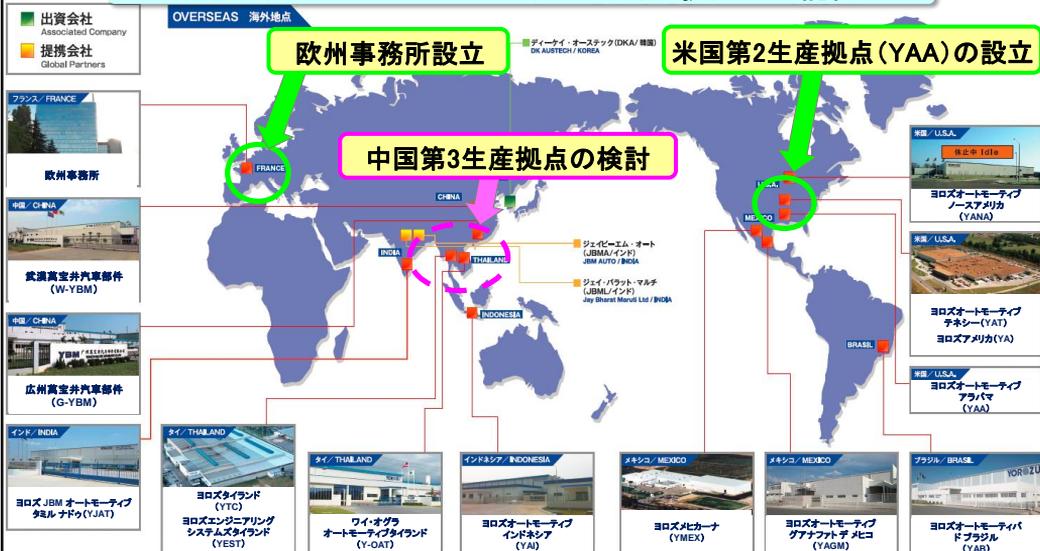
ホンダブラジルより
新車開発優秀賞
(YAB)

25

世界の主要自動車メーカーへの販路拡大

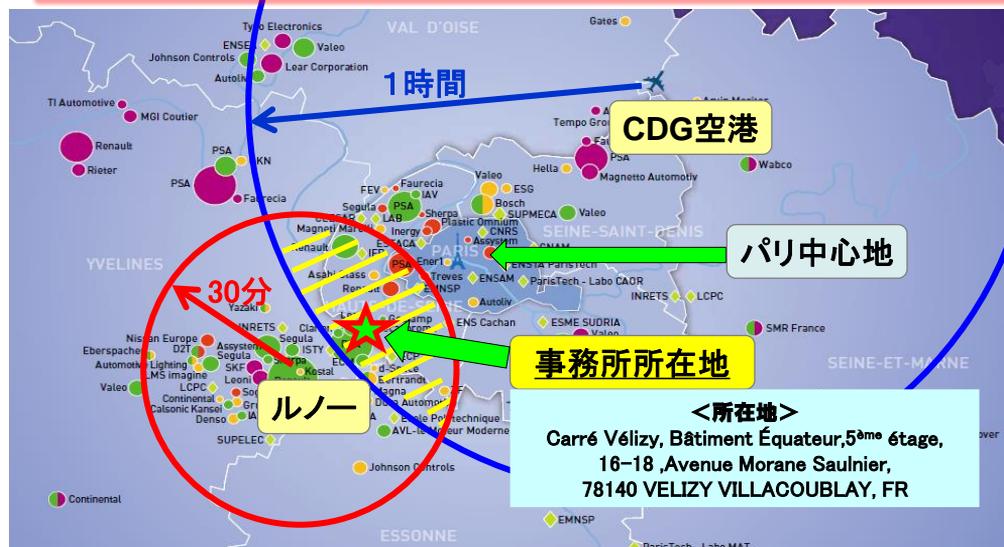
YORZU

ヨロズグローバルネットワークのさらなる拡大の可能性

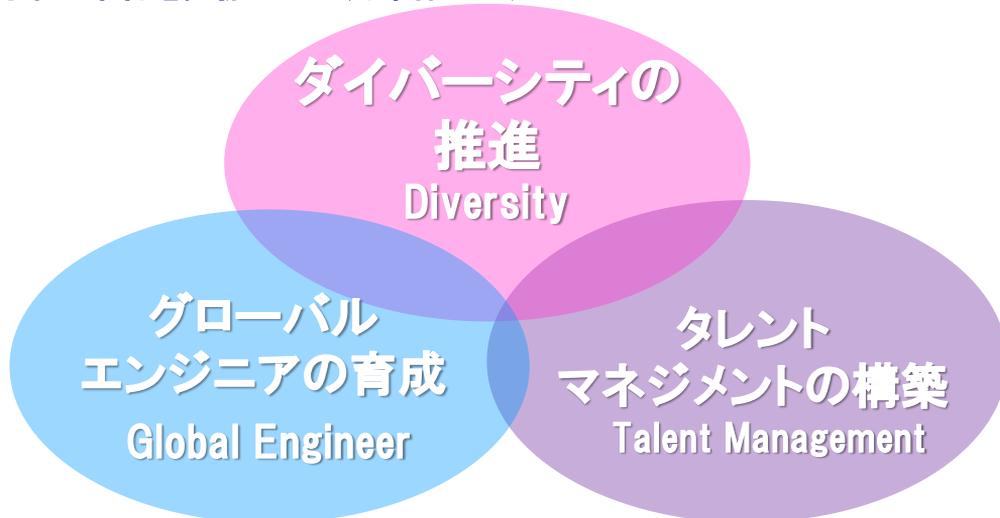


26

欧州事務所設立

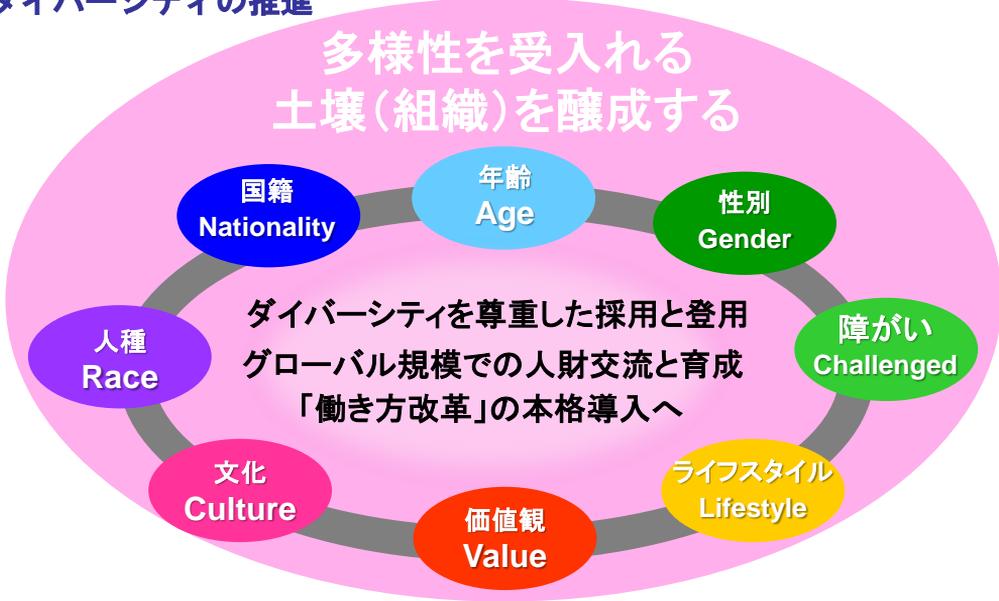


将来の業容を見据えた人財確保と登用



多様性を尊重したグローバルマネジメントの強化

ダイバーシティの推進

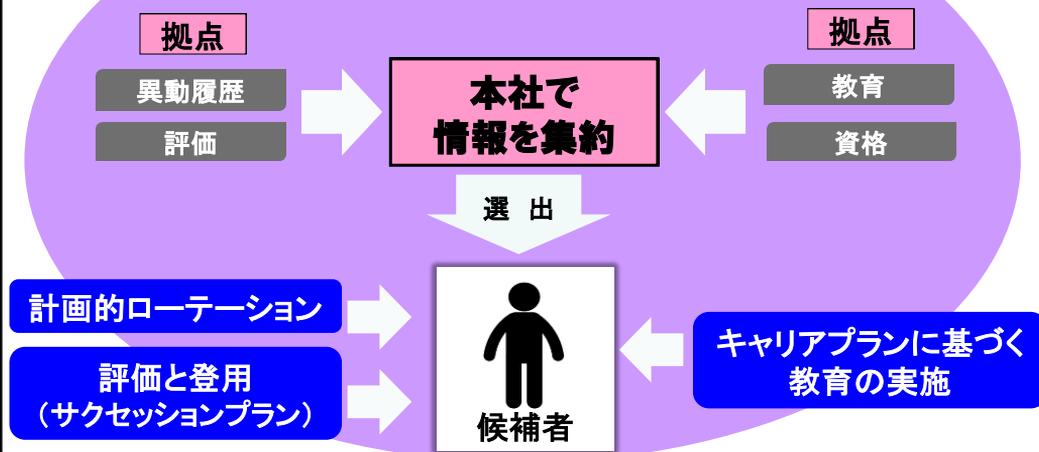


グローバルエンジニアの育成



タレントマネジメントの構築

組織横断的に
人財活用と人財開発を行う



I. 2016年度業績

II. 2017年度予想

III. 米国での収益改善の取り組み

IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性

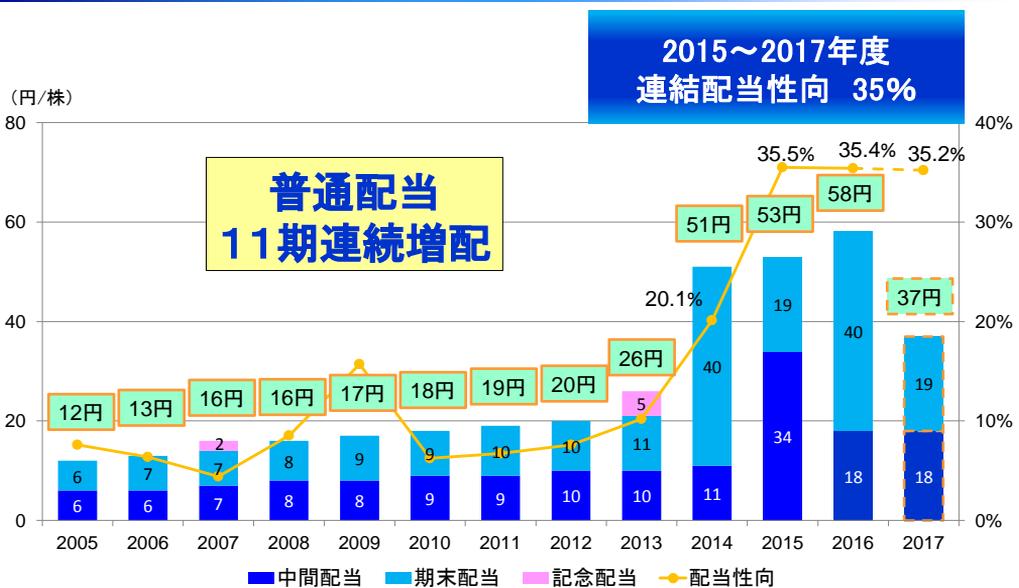
V. 株主還元について

1. 取得した株式の種類： 当社普通株式
2. 取得した株式の総数： 100万株
3. 株式の取得価額の総額： 1,587百万円
4. 取得期間： 2016年9月14日～2016年11月8日まで
5. 取得方法： 信託方式による市場買付

<参考>2016年9月8日開催の取締役会での自己株式取得に関する決議事項

- ・取得し得る株式の総数： 100万株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合4.04%)
- ・株式の取得価格の総額： 20億円(上限)
- ・取得期間： 2016年9月14日～2017年3月13日

自己株式100万株(15億円)を取得



2016年度 **YORZU** 決算説明会
ご清聴ありがとうございました

ヨロズ ホームページアドレス
<http://www.yorozu-corp.co.jp>

35

免責事項と著作権について

YORZU

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さいますようお願い致します。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

●お問合せ

責任者： (株)ヨロズ 取締役副社長執行役員 財務部長 佐草 彰
担 当： (株)ヨロズ 財務部 高橋 剛健

TEL 045-543-6802 FAX 045-543-4915

36